別添様式３

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名：公益社団法人横浜市福祉事業経営者会

研修事業の名称：　定時制在学外国人等高校生向け　介護職員初任者研修(通学課程)

科目・項目	時間	講義内容及び演習の実施方法
1　職務の理解　6時間		
①多様なサービスの理解	3時間	《講義内容》 1．初任者研修とは ①初任者研修の位置づけとねらい ②初任者研修のカリキュラム 2．多様なサービスの理解 ①介護保険による居宅サービス ②介護保険による施設サービス ③介護保険外のサービス
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	《講義内容》 1．介護サービスを提供する現場の実際 ①訪問介護・通所介護・グループホーム・小規模多機能型居宅介護・介護老人福祉施設・介護老人保健施設・ケアハウス・障害者支援施設について、DVD教材を使用し、介護サービス提供の場を具体的にイメージする。 2．介護サービス提供に至るまでの流れ ・ケアマネジメントとは ・ケアマネジメントの構成要素 ・ケアマネジメントの流れ ・ケアマネジメントと介護過程 《演習》 訪問介護・通所介護・グループホーム・小規模多機能型居宅介護・介護老人福祉施設・介護老人保健施設・ケアハウス・障害者支援施設について、「どんな場所か」「どんな人たちが入所しているか」「どんなケアが行われているか」「どんな職員が働いているか」をテキスト、ＤＶＤ教材、講義を参考に、一覧表にした演習シートを個人ワークで作成する。その後、講師がチェックして不足箇所を補い返却する。
2　介護における尊厳の保持・自立支援　9時間		
①人権と尊厳を支える介護	6時間	《講義内容》 1．人権と尊厳の保持 ①介護のおける権利擁護と人権尊重 ・専門職としての人権意識をもつ（個人としての尊重） ・人間らしい生活を送る権利の国家的保障 ・利用者の権利が侵害される例 ・権利擁護の視点（アドボカシー・エンパワメントの視点を含める） ②介護における尊厳保持の実践 ・生きる実感と尊厳 ・介護の場における尊厳の保持（役割の実感） ・存在そのものを尊ぶ姿勢 ・尊厳のある暮らし ・尊厳のある暮らしを支える介護実践（利用者のプライバシー保護について含める） 2．ICF ①ICFの考え方 ・ICFとは何か ②ICFの視点とアセスメント ・している活動、できる活動、する活動の関連性 ・介護職とICFについて 3．QOL ①利用者のQOL（QOLの考え方） ②QOLを広げる視点（生活の質・生命の質・人生の質） 4．ノーマライゼーション ①ノーマライゼーションの二つの大きな流れについて ②近年のノーマライゼーションの展開 上記の①と②よりノーマライゼーションの考え方を捉える 5．虐待防止・身体拘束禁止 ①高齢者虐待防止法（高齢者の養護者支援を含める） ②身体拘束の禁止 ③障害者虐待防止法 6．個人の人権を守る制度の概要 ①日常生活自立支援事業 ②成年後見制度 ③苦情解決の制度 ④個人情報保護に関する制度 ⑤消費者保護法

②自立に向けた介護	3時間	《講義内容》 1．自立支援 ①介護における自立（自立と自律） ②自立への意欲と動機づけ（動機と欲求・重度化防止について含む） ③その人らしさの理解（個別性・個別ケア） 2．介護予防 ①介護予防と介護保険 ・介護予防とは ・介護予防と介護保険 ②生活における介護予防の視点 《演習》 介護場面において、自立を妨げる要因についてグループで話し合い、グループ発表を行う。その後、講師による講評を行う。
3　介護の基本　　6時間		
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5時間	《講義内容》 1．介護環境の特徴 ①訪問介護と施設介護サービスの違い ②地域包括ケアの方向性 2．介護の専門性 ①利用者主体の支援姿勢 ②利用者の生活意欲と潜在能力の活用（重度化の防止と現状維持をするための視点を含める） ③チームケアの重要性（事業所内のチーム多職種から成るチームケアを含める） ④根拠のある介護 3．介護にかかわる職種 ①多職種連携の理解 ②異なる専門性をもつ職種の理解
②介護職の職業倫理	1.5時間	《講義内容》 1．職業倫理 ①専門職の倫理の意義 ②介護福祉士の倫理 ・介護職に求められる法的規定 ・介護職に求められる行動規範 ・プライバシーの保護・尊重
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5時間	《講義内容》 1．介護における安全の確保 ・介護におけるリスクマネジメントとは（リスクとハザードについて含める） 2．事故予防、安全対策 ①リスクマネジメントの必要性 ②事故防止、安全対策の実際 ③事故に至った経緯の報告 ④情報の共有 3．感染対策 ①生活の場での感染対策 ②感染対策の３原則（感染の原因・遮断・抵抗力の向上） 《演習》 「介護の場面には、どのようなリスクがあるか」について、グループ討議を行い、知識と経験に基づくリスクマネジメントの重要性を理解する。
④介護職の安全	1.5時間	《講義内容》 1．介護職員の心身の健康管理 ①健康管理の意義と目的　②こころの健康管理（ストレスマネジメント）　③からだの健康管理（腰痛予防） 2．感染予防 ①感染管理　②衛生管理
4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携　9時間		
①介護保険制度	3時間	≪講義内容≫ 1．介護保険制度創設の背景と目的 ①人口の少子高齢化と家族による高齢者介護の限界 ②1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革 ③介護保険制度の基本理念 2．制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ①国・都道府県・市町村の役割　②その他の組織の役割 ③介護保険の財政（保険に必要な費用・保険料・利用者負担） 3．介護保険制度のしくみの基礎的理解 ①介護保険制度の概要　②保険者・被保険者　③保険給付の対象者 ④保険給付までの流れ（ケアマネジメントの流れ） ⑤保険給付の種類と内容（代表的なサービスの種類と内容） ⑥地域支援事業 《演習》 グループごとに代表的な居宅サービスについて調べ、その対象、サービスの内容等について発表してもらう。その後、講師が講評する。

②医療との連携とリハビリテーション⑴医療との連携	1.5時間	≪講義内容≫ 1．医行為と介護、喀痰吸引 2．訪問看護 3．施設における看護と介護の役割・連携
②医療との連携とリハビリテーション⑵リハビリテーション	1.5時間	≪講義内容≫ 〇リハビリテーションの理念
③障害福祉制度およびその他制度	3時間	≪講義内容≫ 1．障害者福祉制度の概念 ①障害と障害者の概念（ICF）　②障害福祉理念としての「自立」 2．障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 ①障害者自立支援法の制定と障害者総合支援法　②障害福祉サービスの種類と内容 ・自立支援給付と地域生活支援事業 ・自立支援給付 ・地域生活支援事業（日常生活自立支援事業も含む） ③障害福祉サービス利用の流れ ・介護給付と訓練等給付の利用 ・障害程度区分認定 ④自立支援給付と利用者負担 ・障害福祉サービスの利用者負担 ・補装具、自立支援医療、地域生活支援事業の利用者負担 ・実費負担 ・高額障害福祉サービス等給付費 ・地方公共団体独自の軽減措置 3．個人の人権を守る制度の概要 ・日常生活自立支援事業 ・成年後見制度とは ・苦情解決の制度 ・個人情報保護に関する制度 ・消費者保護法
5　介護におけるコミュニケーション技術　　6時間		
①介護におけるコミュニケーション	3時間	≪講義内容≫ 1．介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ①対人援助関係とコミュニケーション　②人間的・効果的なコミュニケーションの基本 2．コミュニケーションの技法 ①メッセージの送り手と受け手 ②言語的チャンネルと非言語的チャンネル（言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションを含む） 3．利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ①利用者の思いを把握する　②意欲の低下の要因を考える　③利用者の感情に共感する ④家族の心理を理解する　⑤信頼関係を形成する　⑥自分の価値観で家族の意向を判断し、非難しない 4．利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際（道具を用いた言語的コミュニケーションも含む） ①視力の障害に応じたコミュニケーション技術　②聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ③失語症に応じたコミュニケーション技術　④認知症に応じたコミュニケーション技術 《演習内容》 傾聴、受容、共感の技術について、受講者間で体験的に学んでいく。
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	≪講義内容≫ 1．報告、連絡、相談 ①報告、連絡、相談の意義と目的　②報告、連絡、相談の具体的方法と留意点 2．コミュニケーションを促す環境（介護サービス現場の会議など） ①会議の意義と目的 ②会議の種類と運用 （情報の共有の場、役割認識の場であることを説明することを含める） ・職場内ミーティング ・ケアカンファレンス、事例検討 ・サービス担当者会議 3．記録による情報の共有化 ①記録の意義・目的 ②記録の種類 ・フェイスシート ・アセスメントシート ・個別援助計画書 ・経過記録 ・実施評価表 ・ケアカンファレンスの記録 ・事故報告書・ヒヤリハット報告書 ③記録の書き方と留意点（観察の重要性、5W1Hについての説明を含む） 《演習内容》 不十分な介護記録の例を示し、不足している記録内容、表現方法などの修正点についてグループで話し合い、その後、講師による講評を行う。

6　老化の理解　　6時間		
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	《講義内容》 1．老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ①老化による心理や行動を理解するための視点　②社会的環境の変化と心理 2．老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 （精神的機能の変化と日常生活への影響も含める） ①身体機能の変化　②感覚機能の変化　③咀嚼機能、消化機能の変化 ④循環器の機能の変化　⑤呼吸器の機能の変化　⑥筋、骨、関節の機能の変化 ⑦泌尿器の機能の変化　⑧体温維持機能の変化　⑨記憶機能の変化 《演習》 「加齢に伴う五感の変化が日常生活にどのような影響を与えるか」について、グループ討議を実施。その後、講師による介護の場面で気をつけるべき点を解説する。
②高齢者と健康	3時間	≪講義内容≫ 1．高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ①痛み（腹痛）　②痛み（骨・筋肉・関節）　③浮腫（むくみ）　④便秘 ⑤下痢　⑥誤嚥 2．高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 ①生活習慣病　②運動系の病気　③知覚系の病気　④呼吸器の病気 ⑤腎・泌尿器の病気　⑥消化器系の病気　⑦循環器系の病気 ⑧脳・神経系、精神の病気　⑨介護保険の特定疾病 ⑩感染症の病気（誤嚥性肺炎の説明含む）
7　認知症の理解　　6時間		
①認知症を取り巻く状況	1.5時間	《講義内容》 1．認知症ケアの理念 ①その人を中心としたケア　（パーソンセンタードケア） ②その人らしくあり続けるための支援実現視点を含む） 2．認知症ケアの視点 ①問題視するのではなく、人として接する ②できないことではなく、できることをみて支援する
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5時間	≪講義内容≫ 1．認知症の概念 2．認知症の原因疾患とその病態 3．原因疾患別ケアのポイント 4．健康管理
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5時間	≪講義内容≫ 1．認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ①認知症の中核症状　②認知症の行動・心理症状（BPSD） ③認知症と生活環境 2．認知症の人への対応 ①認知症にかかわる際の前提 ・認知症の人にかかわる前に ・自分の特徴を知る ・自分の気持ちを確認する ・自分の身体の状態を確認する ・自分の表情を確認する ・自分のプライドを傷つけない ・相手の話に耳を傾ける ・相手をそのまま受け入れる ・非審判的態度をとる ・相手の価値観を尊重する ②実際のかかわり方の基本 ・相手の気持ちの読み取り方 ・本人の行動を妨げない介護の方法 ・上手に質問する ・感謝の気持ちを伝える 《演習》 グループワーク：認知症の利用者が安心して住み慣れた地域の中で生活できるようにするためには何が必要かを考えて、話し合い、グループ発表する。その後、講師による講評を実施。
④家族への支援	1.5時間	《講義内容》 1．家族へのレスパイトケア 2．家族の力の活かし方 （認知症の受容過程での援助についても含めて説明する）

8　障害の理解　　3時間		
①障害の基礎的理解	1時間	≪講義内容≫ 1．障害の概念とICF 　①「障害」をどうみるのか　②国際障害分類と国際生活機能分類 2．障害者福祉の基本理念 　①ノーマライゼーション　②リハビリテーション　③インクルージョン 《演習》 「普通の暮らしとは何か」について、グループ討議を行い、障害福祉の基本理念を理解する。
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	≪講義内容≫ 1．身体障害 　①視覚障害　②聴覚・言語障害　③肢体不自由（運動機能障害）　④内部障害 2．知的障害 　①知的障害の心理学的概念　②知的障害の原因　③介護上の留意点 3．精神障害 　①精神障害・精神障害者の定義　②精神障害（疾患）の理解 （高次脳機能障害・発達障害の説明を含む） 　③精神障害のある人の生活の特徴と介護の留意点 4．その他の心身の機能障害 　①難病とは何か　②主な難病の特徴 　③難病のある人の生活の理解と介護上の留意点
③家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	≪講義内容≫ 1．家族の理解と障害の受容支援 　①家族支援の視点　②障害の受容と家族 2．介護負担の軽減 　①家族を取り巻く社会環境　②家族支援となるレスパイトサービス
9　こころとからだのしくみと生活支援技術(基本知識)　　11時間		
①介護の基本的な考え方	5時間	≪講義内容≫ 1．理論に基づく介護 　①介護の理論 　②「介護」の見方・考え方の変化 　（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除の説明を含む） 2．法的根拠に基づく介護
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	≪講義内容≫ 1．学習と記憶に関する基礎知識 　①学習のしくみ　②記憶のしくみ 2．感情と意欲に関する基礎知識 　①感情のしくみ　②意欲のしくみ 3．自己概念と生きがい 　①自己概念の視点　②生きがいとQOLの視点 4．老化や障害を受け入れる適応障害とその阻害要因 （こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響の説明を含む） 　①要介護状態と高齢者の心理　②不適応状態を緩和する心理 　③施設への入所・入居による環境の変化と心
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3時間	≪講義内容≫ 1．人体の各部の名称と働きに関する基礎知識 2．骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 　①骨の構造とはたらき　②関節のはたらき　③筋肉のはたらき 　④ボディメカニクスの活用 3．中枢神経と体性神経に関する基礎知識 （こころとからだを一体的に捉えることについて説明含む） 4・自律神経と内部器官に関する基礎知識 （利用者の普段との違いに気づく視点について説明含む）
9　こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術)　　54時間		
④生活と家事	3時間	≪講義内容≫ 1．生活と家事の理解 　・生活歴を捉え、多様な生活習慣があることを分かる 　・自立支援を意識すること 　・予防的な対応を心がけること 　・主体性・能動性を引き出すようにすること 　・価値観の多様性について 　①自立生活を支える家事 　②家事援助のポイント 2．家事援助に関する基礎的知識と生活支援 　①調理　②洗濯　③掃除・ごみ捨て　④衣服の補修・裁縫 　⑤衣服・寝具の衛星管理　⑥買い物　⑦家計管理 《演習内容》 食材を提示し、その中で高齢者に適したメニューを考え、調理の手順についてグループで話し合う。その後、講師による講評を行う。

⑤快適な居住環境整備と介護	3時間	≪講義内容≫ 1．快適な居住環境に関する基礎知識 （家庭内に多い事故、バリアフリーについての説明含む） 2．高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 （住宅改修と福祉用具の貸与についての説明含む） 3．住宅改修と福祉用具の貸与に関する制度上の基礎知識を確認する 4．福祉用具を活用した生活支援の実例を示しながら、制度について確認する 《演習内容》 住宅改修が必要な事例を示し、どのような改修が効果的かをグループで検討する。その後、講師による講評を行う。
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	≪講義内容≫ 1．整容に関する基礎知識 ①なぜ身じたくを整えるのか　②自立生活を支える身じたくの介護とは 2．整容の支援技術 ①洗面　②洗髪　③ひげの手入れ　④爪の手入れ　⑤化粧　⑥衣服の着脱 《演習内容》 1．かぶりの上衣の着脱介助（片麻痺の利用者）の技術を身につける（座位姿勢の場合） 2．ベッド上で寝たきりの利用者に対する寝衣の交換の介助の技術を身につける。（片麻痺の場合）
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（6H×2回）	12時間	≪講義内容≫ 1．移動・移乗に関する基礎知識 ①なぜ移動をするのか　②残存能力の活用と自立支援　③ボディメカニクスの活用（ボディメカニクスの基本原理） ④姿勢の安定（重心・重力の動きの理解） 2．移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ①手すり、歩行器、杖　②車いす　③移動用リフト　④簡易スロープ・段差解消機 3．利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ①体位変換　②安楽な体位の保持と褥瘡の予防 ③ベット・車いす間の移乗介助　④車いすの介助 4．移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ①精神機能の低下が移動に及ぼす影響 ②身体機能の低下が移動に及ぼす影響 5．移動と社会参加の留意点と支援 ①外出の支援　②円滑な外出のための留意点　③外出先における留意点 ④社会参加の支援 《演習内容》 1．体位変換の技術を身につける。 ベッド上での水平移動・上方への移動・仰臥位から側臥位へ・仰臥位から端坐位へ・端坐位から立位へ 2．車いすの基本操作方法を身につける。 段差の介助・坂道の介助 3．ベッドから車いすへの移乗介助の技術を身につける。 4．肢体不自由者の杖歩行の介助方法と、視覚障害者の歩行介助方法を身につける。
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	≪講義内容≫ 1．食事に関する基礎知識 ①なぜ食事をするのか　②食事に関連したこころのしくみ　③食事に関連したからだのしくみ 2．食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ①「おいしく食べる」を支援するために　②食事の介助　③食事関連用具 ④誤嚥・窒息の防止　⑤脱水の予防　⑥口腔のケア 3．楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ①精神機能の低下が食事に及ぼす影響　②身体機能の低下が食事に及ぼす影響 4．食事と社会参加の留意点と支援 《演習内容》 1．ベッド上での食事介助の技術を身につける。（片麻痺の場合） 2．座位での食事介助と、洗面所での口腔ケアの技術について身につける。（片麻痺の場合）
⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	≪講義内容≫ 1．入浴・清潔保持に関する基礎知識 ①なぜ入浴・清潔保持を行うのか　②入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ ③入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ 2．入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法 ①「気持ちのよい入浴」を支援するために　②入浴の介助　③浴室の空間構成 ④入浴整備と関連用具　⑤手浴・足浴の介助　⑥洗髪の介助 ⑦清拭 3．楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 ①精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ②身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 《演習内容》 1．座位での足浴や全身清拭の介助技術を身につける。 2．家庭浴槽、機械浴槽における入浴介護技術を身につける。 3．洗髪

⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	≪講義内容≫ 1．排泄に関する基礎知識 ①なぜ排泄をするのか　②排泄に関連したこころのしくみ ③排泄に関連したからだのしくみ 2．排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ①「気持ちのよい排泄」を支援するために　②排泄の介助　③トイレの環境 ④排泄関連用具　⑤便秘、下痢への対応 3．爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 ①精神機能、判断力の低下が排泄に及ぼす影響 ②身体機能の低下が排泄に及ぼす影響 《演習内容》 1．ポータブルトイレ・尿器、差し込み便器を使用した介助技術を身につける。 2．ベッド上でのおつむ交換の技術を身につける。
⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	≪講義内容≫ 1．睡眠に関する基礎知識 ①なぜ睡眠が必要なのか　②睡眠を引き起こすしくみ　③眠りの種類 2．睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ①「安眠」を支援するために（褥瘡予防を含む）　②寝室の空間構成　③睡眠と薬 3．快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 ①睡眠不足が及ぼす影響　②加齢による心身の変化が睡眠に及ぼす影響 ③病気や障害が睡眠に及ぼす影響 《演習内容》 1．睡眠のための環境整備としての基本的なベッドメイキングの技術を身につける。 2．利用者の状態に合わせた、睡眠のための環境整備として、利用者がベッドに寝た状態でのシーツ交換の方法を身につける。
⑫死にゆく人に関したしたこころとからだのしくみと終末期介護	6時間	≪講義内容≫ 1．終末期に関する基礎知識 ①終末期の理解 ②終末期の変化の特徴（臨終が近づいた時の兆候と介護） 2．生から死への過程 （高齢者の死に至る過程、老衰、癌死の説明含） ①死のとらえ方　②尊厳死 3．「死」に向き合うこころの理解（介護従事者の基本的態度の説明含む） ①「死」に対するこころの変化　②「死」を受容するまでの段階の進み方 ③家族の「死」を受容する段階 4．苦痛のない死への支援 ・多職種間の情報共有の必要性について ≪演習内容≫ 1．検討事例を示し、本人及び家族への支援方法を、グループで検討し発表。講師が講評をする。
9　こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術演習)	15時間	
⑬介護過程の基礎的理解	3時間	≪講義内容≫ 1．介護過程の目的・意義・展開 ①根拠に基づいた介護の実践　②介護過程の展開のイメージ 2．介護過程とチームアプローチ ①チームアプローチにおける介護職の役割 《演習内容》 事例を用いて介護計画の立案までの展開過程を演習する。
⑭総合生活支援技術演習（6H×2回）	12時間	≪講義・演習内容≫ 事例1　できるだけ外にでかけたいと思っている利用者の支援の支援 （部屋着から、外出用の衣類への着衣脱介助→居室から玄関に出るまでの介助まで） 72歳　男性　独居　左片麻痺　T杖使用　社交的 上位の着衣脱は袖を通すとき一部介助 自宅内では部屋着 事例2　「食べたくない」と訴える小規模多機能型居宅介護利用者の支援 （主治医や訪問看護師と相談した献立を提供し、食事の介助→洗面所へ移動し口腔内の清潔の介助まで） 80歳　女性　小規模多機能型居宅介護施設を利用　要支援2　糖尿病 右手に力が入りにくい。口内炎ができている。 ＜事例展開の流れ＞ 事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析 →適切な支援技術の検討→支援技術の演習及び評価

１０　振り返り　　5時間		
①振り返り	3時間	≪講義内容≫ １．今後の介護人材キャリアパスのイメージ 　①介護人材をめぐる養成体系の見直し　②介護職とキャリアパス 《演習内容》 １．研修を通じて学んだこと ２．今後継続して学ぶべきこと ３．根拠に基づく介護についての要点 上記１～３について、グループで検討し、ワークシートを作成。講師が講評を行う。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	≪講義内容≫ １．継続的に学ぶべきこと ２．研修終了後における継続的な研修について（実例紹介） 「振り返り」を踏まえ、上記に１～２について、実例紹介をしながら講義を行う。
１１　独自科目　　18時間		
開講式	1時間	○開講式・開校式オリエンテーション
「追加」開講オリエンテーション	2時間	○コミュニケーション
「追加」施設見学	3時間	○ビジネスマナー
「追加」職業人講話	3時間	○職業人講話
「追加」中間テスト	1時間	○中間テスト
修了評価試験(1H)	1時間	○修了評価試験
「追加」就職ガイダンス(3H×1、4H×1)	6時間	○就職ガイダンス
修了式	1時間	○修了式

合計　　154時間